

浦幌町立博物館だより

令和元(2019)年12月号

編集・発行：浦幌町立博物館 ☎089-5614 北海道十勝郡浦幌町字桜町16-1 / ☎ 015-576-2009 / ✉ museum@urahoro.jp



いま、なぜキリスト教会の展示なのか？

企画展「信仰の灯は永遠に：福音ルーテル池田教会と吉田康登牧師の足跡」の開催にあたって

今年の8月、池田町からひとつのキリスト教会が消えました。ルター派のプロテスタント教会である日本福音ルーテル帯広教会の池田礼拝堂です。信徒数の減少にともない、やはり1年前に閉鎖となった釧路教会と共に、帯広教会へ統合されることになったため、礼拝堂は9月に解体されました。

池田教会の創設に尽力した人々は、実は浦幌の人々です。戦後入植で浦幌町万年に入った、元牧師の吉田康登(やすなり)氏の周りに人々が集まりはじめ、徐々に信仰者が増えて、やがて池田町に教会が建てられるに至りました。その教会の建物も、旧浦幌炭鉱の協和会館を移築したものでした。

こうして発展してきた池田教会が、今年の夏、ひっそりと歴史を終えたのです。この「ひっそりと」というところが、博物館にとっては重要な論点です。ある時代、その地域にキリスト教が根付いていたという史実、人々の篤い信仰心という歴史を、誰が記録するのでしょうか？

実は日本のキリスト教史は、明治のいわゆる開拓時代については詳しく記録されているものの、その後についてほとんど記述がありません。池田のような教会は、誰にも記録されないまま地域の歴史から消え、やがて人々の記憶からも消え去ってしまう危険があるのです。

人々の熱意によって建てられ、精神的支柱となってきた教会の存在と、ある時代、キリスト教が地域に果たしてきた役割について、きちんと記録しておくことが必要です。そこで浦幌町立博物館では、教会の閉鎖に伴い、資料収集や関係者への聞き取りを行ってきました。

本展では、そうした活動成果の一端をご紹介します。浦幌で芽生え、池田で結実した小さな教会の歴史。キリスト教という、いまの浦幌ではあまり馴染みの無い信仰が、地域に根を張っていた時代があったという事を、この機会に覚えていただければ幸いです。

(浦幌町立博物館 学芸員 持田 誠)